海陽三月廿日ゆくるまろ
られうるさまとれとしし
野芳野山ゆのうちに
なるうるうちはたらうん
むれ見るるもいくまるう
なるはるるはしはしは
こかとおもひるるて大文人
のいとはるるるれおかな
のはなるるむるるもの
十日あまるを七日の神ていの
山ふるるうるいるうるぬふと
のるれるるるるはるるの

昭和文庫

雅章

吉野川のわたりして舟よりわたりしかの岸の数みえ盛之ゝ

吉野川をわたりしかの
もゝくさのしら浪
ちゝ百ゝをうつしてよりけり

浪しろしめしの
六河の淀ふるも柳の系
のうちゝ
まゝ柳のみどりふかくふるも

六面ばかりとうるる風
一坂といふ所の櫻一本
乃のゆくてに盛なれい
見るみやさへ一木にさかせて
山口しるくあらはるる
四方懸の神をおろして
芳野山さくらのゆめ
つるぎ神乃ん
多年櫻にて
時せつふるやいとれ山
子和有るふ花のそる風
隠松をし
仕るまま

盛なるを見ていりこれ
三船山をしてみわ
仕るかもそ
やう不ん
多附日て有こ
元浪路とる風
四方櫻に蹴鞠魚をおし
ゆる
鞠乃場とうる
四方のそ面

金沢岳にまて

志ゝ[illegible]ゆゝ[illegible]

[illegible]

佐[illegible]の[illegible]

山[illegible]川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芳野山を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしろもうつきやいとしめなの
えだの袖ゆるる山風そめへ
布引桜に三尺根より谷の庭
まて咲つゝそ付侍
加川も月しきてとよりれ山
名をしるしる家る花の一枝
雲井桜に花をおひて三尺根
みくまつ
作間をへなひて風れて同名の
雲井の花もしるしるの
鵜尾山をしへ付侍
つるもの花をしるしるふるめ

えだもうるをる花鵜尾の山
滝桜に布引といしやうと
峯より咲つゝ匂れいる
いまれ名をしるしるのたをさゝ
えだの涙の川尺よりの山
子安の神有りて
尺よりの山ゆゝしきおもひ
雲井の花そゝれる
鄭蜀雲に名をしるし付れ
蔵王ゆゝ花をしるれ年の
けしの岩名りゆゝしれて
遠谷に深谷に谷を付侍も

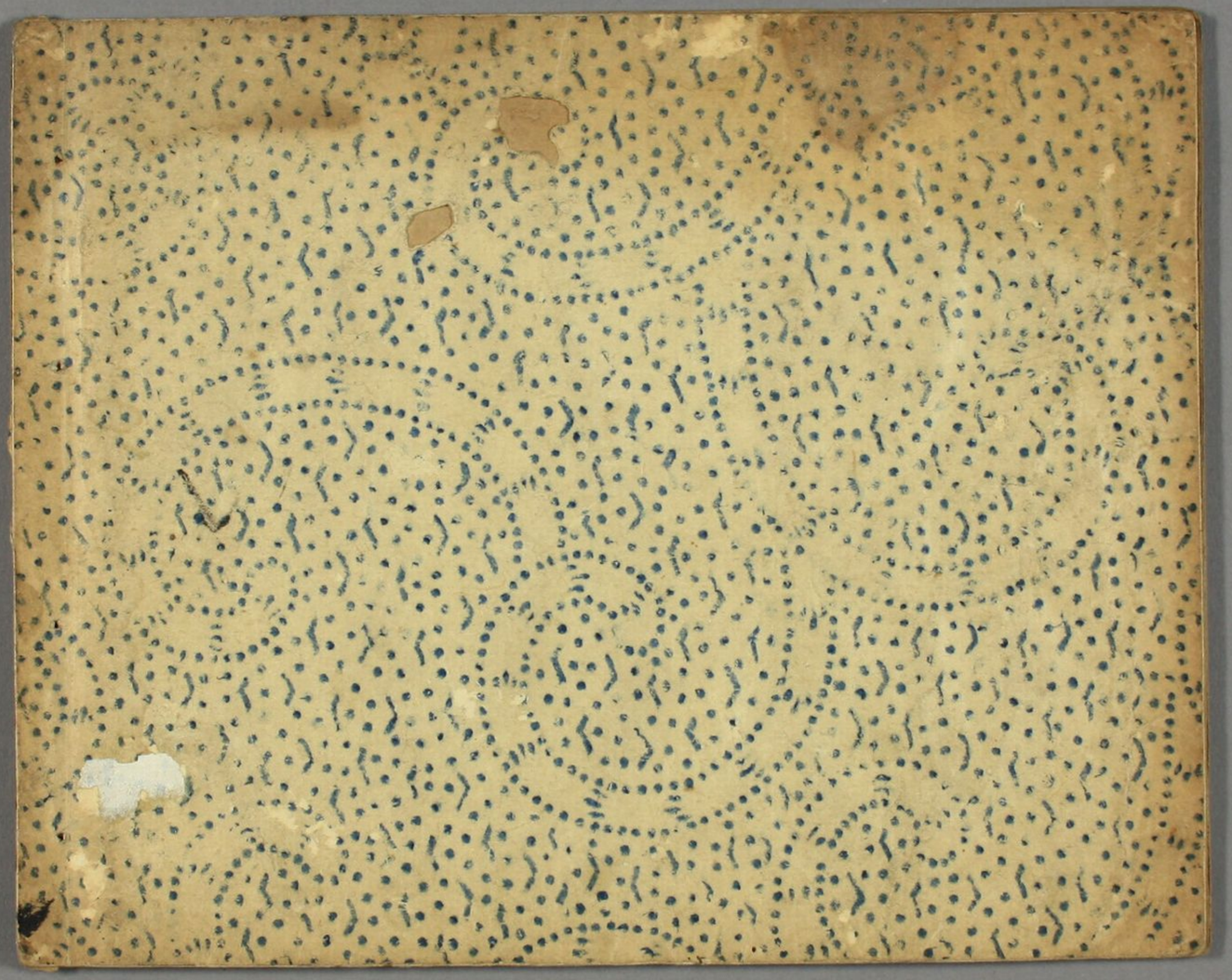
花の山にこれぬるゝこと
なれば
立雲をこれぬるゝ峯の花も
ゝ
知り顔に
ゝ
ゝ
ゝ

滝のいと細くてちいさくて左の山
の下を流れる水は桜木の
多い山を過ぎて妹の郷を
○ここより北へ水なる山の滝津川も
すぐ西へ出てこの川のみなれそうなる
よく行くを見ていそく
滝津をのぼりて宝山を過ぎて
みなれの出るよりまたやあふ
妹背山をみあやまとく
うの紀中の巻の流れうら野川
いもせ山をみなれいそく
国栖といふ所大内の節会
又蔵王山の前をうら若
下りゆくことをおいそく
ちりのゆきもくるの
よりはくれいをはうの
ふるくりもうるはれ
里を立てうるはれ蔵王権現の
あを桜を三十かうえさせて
川を又十かいつくえうしぜ
わうをしもをまてこむ
紀のうら若みやまて
へてもたりとをれて乃てる
うるはしみ河のうるせ

[illegible]

[illegible]

有馬[illegible]

[illegible]

[illegible]